

# 平成 21 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	初妊牛における環境性乳房炎予防技術		
[要約] 初妊牛に対する分娩予定日2週間前からの1日1回の乳頭ディッピングは、分娩後の乳房炎発症を抑制する。					
キーワード	乳房炎	初妊牛	ディッピング	畜産研究所	家畜飼養・飼料研究室

## 1 背景とねらい

酪農経営において、乳房炎は出荷乳量の損失と乳価維持が困難となり、淘汰の主要な理由となることから、経営を大きく圧迫する要因となっている。

近年、初妊牛が分娩直後に発症する乳房炎の多くは、分娩直前の細菌新規感染によることが報告されている。また、依然として乳房炎罹患牛が次回乳期の乳房炎として発症する傾向が強く、分娩直前の乳房管理を徹底する必要性が示唆されている。

そこで、初妊牛における乳房炎罹患および乳頭管理と分娩直後の乳房炎発症との関連性について明らかにする。

## 2 成果の内容

- (1) 初妊牛について、分娩予定日2週間前からの乳頭ディッピングは、分娩直後から10日目までの乳房炎発症を抑制する(表1)。
- (2) 初妊牛の分娩予定日2週間前からの乳頭処理は、分娩までの期間中毎日1回、アルコール脱脂綿で各乳頭を清拭後に、ディッピングを行う(図1)。
- (3) 使用するディッピング液は通常の搾乳時に使用するものと同様であるが、ディップ容器については搾乳に使用するものとは区別したものを使用する。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 初妊牛の乳房炎抑制には、育成期の衛生害虫対策を併用することが望ましい。
- (2) 分娩予定日2週間前からの乳頭ディッピングにかかる経費は1日当たり20.4円、2週間の経費は285.6円である(参考表)。

## 4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等  
県内全域の酪農経営体

(2) 期待する活用効果

分娩前2週間の乳頭ディッピングにより、初妊牛の分娩直後の乳房炎発症が抑制される。

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(H19-26) 乾乳期並びに初妊牛における環境性乳房炎予防技術の確立(平成19~21年、県単)

## 6 研究担当者

齋藤浩和、越川志津、菊池雄

## 7 参考資料・文献

- (1) 乾乳時乳量の差異による乳房炎新規感染への影響、平成19年度岩手県農業研究センター成果書
- (2) 乳牛の移行期における新規乳房内感染の予防に対する外部型ティートシールの効果、帯広畜産大学研究報告(2007)28:1~12

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表 1、供試乳頭数および発症割合

		供試数	乳房炎発症割合
乳頭あたり	ディップ区	55	0.00% b
	無処置区	187	7.00% a
個体あたり	ディップ区	14	0.00%
	無処置区	47	14.90%

※異符号間に有意差有り (a, b: p<0.05)

※乳房炎発症は、CMT による乳房炎反応で判断している。

※分娩から 10 日目までの期間での発症割合である。



図 1、分娩予定日 2 週間前から分娩までの乳頭ディッピング手順

※分娩予定日 2 週間前から分娩までの期間中は、1 日 1 回必ず実施する。

※搾乳用のプレ・ポストの区別が無い、ヨード系のディップ剤を使用している。

※上記ディッピングに使用する容器は、通常の搾乳に使用している容器とは区別したものを使用する。

(参考) 初妊牛の分娩予定日 2 週間前からのディッピングにかかる経費

	1 日 1 頭あたり 単価	2 週間	備考(資材購入単価)
ディップ剤 (1 頭あたり 30ml)	10.6 円	148.4 円	20,000 円/本 (15 ガロン)
脱脂綿 (5cm × 5cm カットメン) (1 頭あたり 4 枚)	4.8 円	67.2 円	1,200 円/1 箱 (1,000 枚)
消毒用エタノール (脱脂綿 1 枚あたり 1ml)	5.0 円	70.0 円	20,000 円/本 (16 リットル)
計	20.4 円	285.6 円	

※泌乳期用乳房炎軟膏：600 円/本 (9g)